

令和 7 年 2 月 21 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いします。

◆市長

よろしくお願いします。今日は、発表は一件で、県道梅ヶ島温泉昭和線です。大河内トンネルの開通です。梅ヶ島に行くところですが、静岡駅からだいたい 29km あります。どんな場所かというところですが、川の横に、安倍川の横にこういう道路が入っているんですけど、この通りバスが 1 台ギリギリ通れるというところなんです。この川があって、ここに山がかぶっているんで、本当にここが狭くて改良しようがありませんでしたので、ここにトンネルを掘った、大河内トンネルを掘ったということになります。7 年かかりましたけれども、やっと開通することになりまして、ちょっと下げてもらって、3 月 3 日の月曜日、午前中にここで式典をやりますけれども、実際に通れるのは 3 月 3 日の午後 3 時ということですので、7 年でやっとできたということになります。

特に梅ヶ島に行くときは、ここが狭くて非常に気になっていたわけですが、ここがトンネルになることによって、かなり交通の、時間短縮効果はそれほどでもないですけれども、印象としては非常に良くなると思います。

発表案件は以上です。ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただいまの発表案件についてのご質問を受けさせていただきたいと思いますが、ご質問ある方は社名とお名前をおっしゃってから、ご質問の方をお願いいたします。よろしいでしょうか。では、毎日新聞さん。

◆毎日新聞

離合が難しい箇所っていうのはまだ残っているんですか。これが最後…

◆市長

梅ヶ島に行く間にということですか。いや、まだありますね。いくつかありますが、ここが一番厳しいところの一つだと思います。それ以外のところは、意外に良くなっていますね。私の印象ですと、もう少し、もう 1、2 箇所非常に狭いところがありますけど、ただ、こういう川の横で行きにくいというのは、それほど多くはないです、はい。

◆毎日新聞

はい。ありがとうございます。

◆司会

その他、ございますでしょうか。日経新聞さん。

◆日経新聞

トンネルが開通した後、3月3日以降、道路だった場所、細い道路だったという場所は通行止めとかの措置になるのでしょうか。

◆市長

はい。閉鎖です。管理用道路として残すということです。だから、一般通行ではなくて、管理用の道路としては残ります。

◆日経新聞

もう普通の車とかバスとかもトンネルを全部通ると。

◆市長

こちらのトンネルを通っていただく。ちょっと、トンネルを出していただいて、こういう幅員 7mある、わりやい通りやすいところですね。まっすぐですから快適に通っていただけたと思います。

◆日経新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問の方に移らせていただきたいと思います。産経新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆産経新聞

幹事質問をよろしくお願いいたします。

埼玉県八潮市での、道路陥没に伴う道路の調査、道路というか下水道調査については、静岡市の方では特に異常はなかったということでありましたが、これに伴ってというか、これに続いて行われていた道路の調査は下水道に限りませんけど、道路の下に空洞がないかという調査だと伺っておりましたが、概ね 1 週間程度で結果が出るのだらうということでした。

そろそろ結果も出るような時期なのかもしれませんが、その調査の状況などを教えていただければと思います。

◆市長

はい。道路の調査については、確か調査をして、何箇所かあったと思うんですけども、ちょっとお待ちください。道路の調査といいますか、最初に下水道関係で、まずマンホールを開けて中を覗いてみて調査をしました。それでは異常はなかったんですけども、もう一つは車です、点検用の車を入れて調べてみました。そうすると 4 箇所ですね、空洞箇所が見つかりましたので、それについては順次補修をしていくということになります。今日から補修を開始することになります。

ただ、それほど深刻な問題じゃなくて、道路の浅い箇所に、わりあい浅めの空洞がありますので、例えば深さ 20cm ぐらいの空洞があって、それで例えば 1m×1mとか、50cm×50cm ぐらいとか、それぐらいの浅い、狭い小さな空洞がありましたので、それは順次補修をしていくということになります。

そこはあくまで下水道関連のところですので、それ以外に一般道路もありますので、これは今回の調査とは別に毎年計画的にやっています。その結果はまだ出ていませんけれども、毎年かなり、10 件だとか、多い年であると 20 件だとか出てきますので、それは順次やっていくということになります。例えば 2023 年度ですけども、75.5km 調査をして、緊急修繕箇所が 11 箇所出てきたということですので、2022 年度も 10 箇所、2021 年度は 30 箇所ということですので、10 箇所から 30 箇所ぐらいは、浅い空洞が結構出てくるということです。今のところ深い空洞は出てきていないわけですけども、安心することなく、あるいは油断することなく調査を続けていきたいと思います。

◆産経新聞

はい、ありがとうございます。ちなみに、この 4 箇所については、養生をしてというか、通行止め状態にしてある、あるいは…

◆市長

浅いですから、通行止めにはもちろんしますけど部分通行止めですね、それで十分対応できると思いますけど、どうですか。

◆道路保全課

道路保全課の牧野と申します。補足説明をさせていただきます。今、お話がありました 4 箇所につきまして、今、今日ですね、本日は 3 箇所、現場の方が対応し

ておりまして、一応あらかた舗装をめぐって現場の状況を確認しております。特に大きな、八潮市のような大きな下水道管の破損と連携するようなものは確認できておりません。

あともう 1 箇所につきましては、明日実施する予定でして、そちらにつきましては比較的幅が狭くて浅いんですけれども、やはり同じように幅が狭いようなものになっておりますので、すぐに危険というような状況にはなっていないと判断しております。

◆市長

だから部分的に通行止めをして…、それで。

◆道路保全課長

明示だけで、今、ちょっとやらせていただいております。

◆産経新聞

そのまま、ちょっともう一つ教えてください、ちなみに原因は何だと見られるのでしょうか。その空洞の。

◆道路保全課

はい。今回、今 3 箇所やったっていう形だったんですけども、3 箇所のうち 1 箇所につきましては、道路が水路をまたぐときに、横断水路といいまして、コンクリートの水路を作るんですけども、その側壁がちょっと傷んでいて、その関係で吸い出されているようになっていうところが 1 箇所。

あと、もう 1 箇所につきましては、ちょっと原因がわからないんですけども、穴がある。近くに何か特徴的に原因が見受けられるような状態ではないんですけども、やはり現実的には空洞があるっていう状態だった。

あと、もう 1 箇所につきましては、本当に浅いところには出ていたんですけども、深さが無いような、浅い、舗装の下で不等沈下して、ちょっと空洞ができてしまった、そんなような箇所がありました。

◆産経新聞

ありがとうございます。これに関連してなんですが、下水道の対応年数 50 年ぐらいというふうによく言われる、下水道に限らずインフラが、いろいろたくさんあるわけですけども、ただこの下水道でいきますと、全国でも 7% 以上は耐用年数 50 年、別にルールでかっちり決まっているわけじゃありませんが、超えているだろうということだと伺いました。

この比率は今後もう上昇していく可能性が高いわけでありますけども、静岡市は 2023 年に上下水道事業 100 周年ということで、かなり歴史があるということもあって、古い上下水道をはじめとして、生活インフラ多いかと思います。前回の市長会見でも、市長も、こういったものを計画的に、定期的にしっかりと更新していかなきゃいけない、というお話もちょっとありましたが、そうした中で、静岡市の下水道の現状というのを教えていただければと思うのですが、例えば 50 年がいいのかどうか分かりませんが、こういうを超えているのがどれぐらいあるのかとか、あるいは古いものになると、どこに正確に埋まっている場所もわからないとか、そういうものが例えばあるのかだとか、そういった静岡市の上下水道の現状みたいなものを教えていただければ。

◆市長

はい。まず 50 年を経過した菅がどのくらいあるかということですけども、2023 年度末で 8%になります。これからどうなるかということですけども、計画的に実際補修をしているんです。大体年間 6km ぐらい補修しているんですけども、これが残念ながらそのぐらいの補修をやっていくんでは、この 50 年を超える水道下水道管が増えていきます。10 年後には 14%、20 年後には 40%になると、こういう状況ですので、これどうするかということですね。

ただ 50 年を超えたらすぐ変えないといけないというわけではなくて、50 年を超えると、その危険度が高くなるので、より慎重に見ていくってことが大事になります。ですので、全部変えるというのではなくて、一件一件見て行って、変えるべきか変えなくていいのか、それで緊急的に変える必要があるところから変えていくというのが、まず今までの対応になります。

ただ、やはり今までの状況は補修がかなり十分ではないと思っています。先ほどの話ですけど、20 年後に 50 年、50 年以上経過する下水道管の割合が 20 年後に 40%になると聞くと、誰しも心配になりますよね。ですから、そのペースで本当はやっていくのでは駄目なんだと思います。上水道も同じなんですけど、やはりペースが非常に遅かったです。とりわけ耐震化の問題が出ていますけれども、これについても速度が遅すぎました。

今年の、今年度ですね、今年度になって、大石公営企業管理者が一生懸命取り組んでくれて、計画をガラッと変えようということで、今新しい計画を作っています。それで耐震補強、それから老朽化対策、これを加速していかないと、安定的な供給が保てないだろうということです。そんな状況にあります。

とりわけ下水道について一番心配なのは、前もちょっとご説明しましたけど、結局下水道は、今回の状況でもわかりましたけど、途中 1 箇所やられると使えなくなっちゃうわけです。代替ルートが上水道の場合は比較的回していくと

ことができますけども、なぜかという上水道は圧力がかかっていますから、比較的平面のところでも、どこか止めて回していくわけです。下水の場合、基本は自然流下ですから、代替ルートは取れないんです。そうすると、どうしても1箇所やられるとそこで詰まってどうしようもなくなるという状況があるので、下水道については線でやっていかないといけない。

今耐震化で一番問題になっているのは、中島の処理場のところが耐震性がないので、そうすると一番流末のところで耐震性がない状況にあると、他のところをいくら耐震化してやっても最後は耐震化されてなくなったら、結局は八代の場合と同じ全部使えなくなるということです。

したがって、重要な下水道においても重要な菅のところを重点的にまず耐震化するとか、そういう重点化が必要かなと。重点化と加速化ですね、両方が今必要だと思っています。

◆産経新聞

あと最後に一つお願いします。道路の陥没という意味でも、今回非常に八代の件では大きな絵も注目もされましたし、問題にもなりましたが、この道路陥没必ずしも下水道だけではなくて、例えば富士宮で陥没したのは、またちょっと違った事情、先ほどのちょっと溝が崩れてっていうのがありましたと、あれに近いような感じだったかと思うんですけど、道路陥没対策っていうことに関しては、下水道とは切り離す必要があるのかもしれませんが、これはいかがな感じでしょうか。

◆市長

まずは、陥没するときは水が影響することが多いわけです。それで、よく言われる水出しというのがありますけど、例えば、河川があって、例えば、ここに道路がこうやって、ここは川だとしたときに、川の水が上下しますけど、こっちで水がこっちから出ていくわけです。ここで吸い出されることがあるわけですよ。そういう問題がまずあって、大体水が絡むことになります。

やっぱり下水道と上水道が、何が問題かという、上水道についてはどちらかというと圧力がかかっているので、漏水をします。漏水をして吹き出すことによって土がどこかに持っていかれるというのがあります。

下水の場合は、今度は逆に中に入ってしまうっていうことがありますので、その辺をしっかり見た上で対策をとっていかないといけないと思います。

それから、先ほど吸出して言いましたけど、河川の堤防の横であるとか、そういうところは比較的水出しが起きてきますので、そういうところを、あるいは水出しじゃなくて水位が上がったことによって反対側に出ていくこともあります

ので、そういった、とにかく水が絡むので、水が絡みそうなところについては、より慎重な対策をしていくというのが必要だと思っています。

◆産経新聞

わかりました。ありがとうございます。幹事質問、以上でございます。

◆司会

それでは、幹事社質問に関連するご質問をお受けしたいと思います。中日新聞さん。

◆中日新聞

埼玉県での陥没が、先月 28 日の発生からまもなく 1 ヶ月経とうとしています、運転手の男性 1 人がまだ救出されていなくて、素人目線で見ても少し遅いのではと感じますけども、市長は国交省の元技監でいらっしゃる、土木工学の専門家でもいらっしゃいますけども、この一連の、埼玉県だったり、国の対応をどうご覧になっていますでしょうか。この事故から得られた課題や教訓というのを、どのようにお考えでしょうか。

◆市長

はい。現場の状況をよく知らないの、なかなか何も言えないところです。最初から皆さん必死でやられて、とにかく最初は命を救うということを一生懸命努力され、そして、その後も、どんどんどんどん陥没が大きくなって、それに対して対処されたのではないかなと思います。埼玉と言いますか、八潮の問題がどうということではなくて、よくやっぱり災害対応で一番大事なのは「初動全力」と「最悪の事態の想定」と言われますから、とにかく最初の段階で事態を甘く見ないで、とにかく戦力、戦力というのは、それを例えば救助であるとか、あるいは被被害の拡大防止のための人員をどれだけつぎ込むかというところです。

その後、状況がそれほどでなければ引いていけばいいわけです。だから、よく言われるのは、空振りはいいいよ、災害対応のとき。つまり、振ったんだけど、何もありませんでしたはいいいけど、見逃しは駄目ですよと、よく言われるんですけど。だから、やっぱり最初に、もう徹底的にやるのが大事だと思いますので、八潮の場合は一生懸命やられたと思いますけれども、我々もいつああいうことが起きるかわからないので、やっぱりそういうところで組織として初動全力と最悪の事態の想定ということ、今、すでにそういう組織対応していますけども、これからもそういう対応が必要かなと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。NHKさん、お願いします。

◆NHK

ちょっと質問というか、先ほど 4 箇所あるって伺ったんですが、後ほどで構いませんので、大まかな場所がわかればなというのと、あとその 4 箇所って先週の 2 月 12 日、13 日で実施した調査ということでよろしいでしょうかという、その 2 点ですが。

◆市長

はい。2 月 12 日と 13 日の 2 日間やった調査ですね。その中から出てきたものです。4 箇所のリストはお出ししますので、参考にさせていただければと思います。

◆司会

その他、よろしいでしょうか。日経新聞さん。

◆日経新聞

これ今回点検をして、75、違うな、2 日間点検して 4 件見つかった。24 年は 75.5km やって、年ごとだいたい 10 数件出てきているってということなんですけども、いわゆる埼玉県で起きたような事故に繋がるような空洞ができるまでっていうのは、おおまかというか、もちろんケース・バイ・ケースだと思うんですけど、最短でどれぐらいの時間があれば、あれぐらいの小さな空洞から大きな空洞になっていくと思うんですけど、いうふうな、なんていうんだ、穴が大きくなっていくのかっていうところについて、ちょっとお伺いしたいです。

◆市長

それは場合によってはわからないです。とりわけ、あれは管が大きいですから、我々のところはせいぜい 2m の直径の管ですね、下水道。2m のところで吸い出されても、あれほど大きな空洞は起きないと思います。それから、あと深さですよね。どの深さに入っているかということもあるので、静岡市で一番深いのでどのくらいですか。10m。そうするとかなり下に入っていますけども、結局その深いところに入っている、そこで水が吸い出されて、管が細ければ、これ

ぐらいの管で吸い出されても、このくらいのところですけど、こんなに、今まさにこれぐらいの太い管だと、こういうふうに落ちていきますので、ただやっぱり管の太さにすごく影響されます。

だから、我々のところはあれほどのことは起きないとは思いますが、とにかく予断といいますか、油断をすることなく、しっかりと。とりわけ深いところにあるのは影響がすぐには出てこないし、なかなか探查しにくいということもあるので、やっぱり今回の問題をしっかり見て、あれも、もう1回、それで調査計画、あるいは補修計画を見直さないといけないと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けさせていただきたいと思います。静岡朝日テレビさん。

◆静岡朝日テレビ

ガンダムの等身大の模型設置について伺います。17日の議会の総括質問で、市の担当者の方が、「市内に実像を設置すれば、観光誘致や地域活性化に繋がるので、バンダイに設置を働きかけたい」との見解を示されました。難波市長の見解をお願いします。

◆市長

はい。私もその通りだと思いますので、どうやって働きかけるかというのが一番問題だと思いますので、どこかで私が行って効果があれば、どこかで行きますけど、まず、この間は経済局長が答えたんですね。経済局長がものすごく力入っているんで、まずは経済局長に頑張ってもらって、それで実現できればいいかなと思っています。

とにかく、浜松でもいろいろ動きもあるようですので、静岡全体で、やっぱり、とりわけ、こちらの静岡市の場合は、元祖といいますか聖地ですから、聖地らしいものを、バンダイさんに限らず、いろんなものが置ければいいかなと思いますので、一生懸命頑張ってます。はい。

◆静岡朝日テレビ

ちなみになんですけど、設置するとなったら、どのあたりに置きたいかですとか、あと難波市長がガンダムにご興味があるのかどうか。あとは、今、日本国内

でも結構ガンダムの実像って設置されているところ多くて、例えば、ユニコーンガンダムとか、あとフリーダムガンダムの実像がありますけれども、難波市長としてはこういったガンダムが置かれるといいなとか、その辺りご見解がありますか。

◆市長

バンダイさん、バンダイスピリッツですけど、新工場が稼働を開始しますので、その場所が東静岡で新幹線からも見えるところですので、やっぱり新幹線から見えるところが効果ありますよね。もちろん、どこかわざわざ行かないといけないというところも、それはそれでいいんですけど、やっぱり「おおっ」という、新幹線通るたびに「おおっ」という、ちょうど富士川の陸橋を渡るときに、みんな新幹線の中で写真パチパチ撮りますけど、富士山と比べると、ちょっと大きさは違いますが、やはり新幹線から見えるところに置いていただけるのいいかなと。そうすると、人の工場に勝手に置いてはいかんですけど、バンダイスピリッツさんの新工場が、今、稼働開始に向けてやられていますから、その辺りに置かれれば、東静岡がいいんじゃないかなと思います。

◆静岡朝日テレビ

あと、どんなガンダムが来る、どんなガンダムを置きたいとか、その種類がいろいろあると思うんですけど。

◆市長

個人的好みでもいけませんので、いろんなガンダムありますから、それはもうバンダイさんに、こちらがあまりそこまで言うのではなくて、とにかくお願いしますというのが一番いいんじゃないかなと思いますけど。

◆静岡朝日テレビ

わかりました。ありがとうございます。

◆市長

その他、いかがでしょうか。テレビ静岡さん。

◆テレビ静岡

サッカースタジアム構想についてお伺いしたいんですけども、事業スケジュールについて議会でも答弁がありましたけども、最終報告の公表の時期について、まずいつ頃になりそうなのかということをお伺いしたいということと、あと

最終報告書の中身について、どの程度まで公表するおつもりなのか、その辺についてちょっと教えていただけますでしょうか。

◆市長

はい。当初の予定は、3月中、今年度中ですので、3月までに公表したいと思っていたんですけども、はっきり申し上げますと、地権者との調整がなかなかつかないので発表できないという状況です。逆にあそこを利用したいという方ですね。あそこに、例えばスタジアムシティをつくりたいとか、いろんな考えを持っておられる方はいらっしゃることは確認できているんですけども、ただ、やはり、そこは土地を持っている方が了解しない限りは、事業が始まりませんので、今、土地を持っている方、具体的に言うと、ENEOSさんですけども、ENEOS様と調整中ということになります。

それが決まらない限り、ちょっと発表ができないという状況です。逆に言うと、そこさえ決まれば発表できますので、そこを待っているということですので、いつまでにというよりも、突然発表できるような状況になるかもしれませんし、調整がつかなければなかなか発表が遅れてしまうということもありうると思っています。

今、いろんな形で、調整といいますか、話し合いはできていますので、できるだけ早く調整がつくようにしたいと思っています。

◆テレビ静岡

中身はどう、どの程度まで発表されるおつもりですか。

◆市長

中身は、まずは地権者と調整がついたら、そこをどうするかという、どういう利用計画にするかというところですね。その発表が最初になります。

その上で、そこで事業を展開したいという方の方の公募なり、募集をして、それで出来上がってくることになると思います。

ですから、市が先にこんなものをしたいということではなくて、あそこはやはり民間事業主体でやっていただくというのが非常に大事になってきますので、まずは土地を区画整理なのか、どういう土地、といいますか、都市の開発事業にするかは、まだ決まっていませんけども、こういう事業スケジュールでやるので、どなたか公募しませんかというような形になると思います。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。読売新聞さん。

◆読売新聞

スタートアップとのビジネスコンテストの、知・地域共創コンテストの採択企業の、今、実証実験が進んでいると思っておりまして、特に、我々報道にいただいている資料は交通系のものが多いですけれども、今、市長が改めて感じられている市内の交通についての課題感と、あとスタートアップと共創することによってこういったことを期待されているかっていうのを、改めて教えてください。お願いします。

◆市長

はい。交通については、やはり公共交通が、具体的にはバスですけども、バスのサービスが市内、広域にまんべんなくサービスをするというのは、もう限界になってきていると思います。今までは、それでも静鉄さんを中心に中山間地に対してもサービスをお願いするということでやってきました。当然ですけど、中山間地の便数は非常に少ないわけですけども、サービスの維持はできるということ、何らかのサービスはできているという状況を作ってきましたが、もう、それも限界になってきました。それは、中山間地の人口が急速に減少しているのでサービスの維持が厳しいということと、それから、もう一つは、人材の確保です。バスの運転をする方の人材確保が非常に厳しいので、そうすると、どうしても供給数も絞らざるを得ないという状況にあります。そうすると、現状の延長上のバスサービスは維持できないというのを前提で、どうしていくかということになります。

今、地域の公共交通計画を作り直していますけども、今のやり方は街の中ですね、中心市街地でのサービスと郊外のサービスを分けるという形です。そして、郊外のサービスは需要に応じた、よくデマンド型といったり、あるいは小型のコミュニティバスであったり、あるいはライドシェアであったり、そういう新しい形の交通体系を導入して、市街地の中のバスサービスがあるところまできたら、バスサービスに繋ぐということです。そのときに、郊外のサービスと、この中心市街地のバスサービスに円滑に繋がらないといけませんので、それを IT だとか、DX だとか、そういう新しいシステムを使って、どうやって持続可能にしていけるか、円滑に繋がるようにするか、そういう新しいシステム作りの時代になってきていると思います。

今 DX だとか IT を使って、そういう円滑なサービスに繋がるようなことの提案

も、実際にさっきのスタートアップのコンテストでもいただいていますし、それから小型のモビリティみたいなものを使ってやるサービスも、今提案いただいています。それから実証実験が始まりますけど、乗り合いですよ。タクシーの乗り合いも始まっていますので、あれですと、例えばさっきの梅ヶ島ではないですけど、梅ヶ島まで4人ぐらいで行くと、タクシーで行ってもそれほどの金額にはならないわけで、もちろん安いとは言いませんけど、4人乗り合いでいけばそれほどでないので、そうすると、わざわざ大きなバスサービスは必要ないわけです。そうやって新しいサービスを入れていくというのが、これから時代になってきていますので、まちづくりの転換点と、この間の施政方針でも申しましたけど、もう今まさに転換点で、かつそれを見て全国でいろんな提案、新しいビジネスモデルが出来上がりつつありますから、それを積極的に取り入れて、良いサービスを提供できるようにしたいと思っています。

◆司会

その他、いかがでしょうか、SBSさん。

◆SBS

ちょっと話戻ってしまい恐縮なんですけども、ちょっとガンダムの件につきまして、もし実現すれば、市内の回遊という意味で、市とすると、かなり大きなメリットあるのかなと思うんですけれども、誘致に向けて、可能性の話なんですけども、市が費用を一部負担して、誘致を目指すとか、そういった可能性もあったりしますでしょうか。

◆市長

まずはなしで、バンダイさんをお願いをしたいですね。それ以外に、市内でいろんな方々が、いろいろ取り組んでくださっていますので、例えばプラモデル型の、ここにもありますけど、郵便ポストもありますよね。あれも相当広がってきましたし、あるいはタミヤさんとか、アオシマさんとか、いろいろいらっしゃいますから、そういう方と、全体と連携しながら、ホビーショーともうまく連携しながら、相乗効果を上げていくのが必要だなと思います。

タミヤさんも、例えば東京の新橋に新しい店を出されたり、そういうこともありまして、あるいはそういう模型ではなくて、例えば駿河屋さんとか、そういうところもいろんな、外国人インバウンドの皆さんも結構来られていますので、そういうもっと大きな相乗効果が上がるような取り組みが必要じゃないかなと思っています。

市が費用負担する可能性があるかというところでですけど、そういった取り組みは

ほとんど、皆さん、まさに事業としておやりになっていますので、ぜひぜひ、そちらでお願いをして、企業といいますか、会社でご負担いただいて、それがうまく相乗効果が出るように、我々がもっともっと下支えするとか、あるいはいろんなところで誘客をしていくとか、そういったことが大事なかなと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。中日新聞さん。

◆中日新聞

先週発表されました静岡市動物愛護センターの新築移転について伺います。再整備計画案を見ますと、殺処分ゼロ、全頭譲渡を目指す施設にすると書かれていますけども、市長は 2023 年 11 月に現在のセンターを訪問されて、猫のミルクやりなんかを見学したと Facebook にも書かれていましたけども、そこで課題を多く共有したと書かれていまして、現在のセンターの課題と、生まれ変わる新センターへの期待というのを教えてください。

◆市長

はい。現在のセンターは、元々、名前が動物指導センターという、ちょっと意味不明の名前だったんです。動物を愛護するように指導するのか、動物を指導するのか、ちょっとそういう意味がわからないので、まず名前を変えました。動物愛護センターに名前を変えましたけども、その動物愛護センターで、今までの施設がどうなっていたかということ、大変申し訳ないんですけど、かつての狂犬病だとか、いわゆる野良犬と言われていたような時代ですね。そういったときの動物を一時的に抑留、集めて、そこで、これも言いにくいですけど、殺処分をするということがかなり多かったわけです。今そういう時代ではありませんが、今の愛護センターを見ると、かつての施設そのままの状態になっています。例えば床はコンクリートのままで、それでケージも非常に環境が悪い状況になっていますし、それから、かつて使っていた施設、それも背後に残っていますので、そこは行った瞬間に気持ちが、あまりいい気持ちはしない場所になっています。それでペットといいますか、そこに保護される動物もやっぱり同じことに感じると、もっと敏感ですので、そういうことを感じると思いますので、今の状態だととても動物を愛護をできるようなセンターになっていないという状況

だと思います。ハード面ではです。

もちろん職員の皆様は、本当に献身的に動物の保護をやっていますので、それでハードは悪いんだけど、ソフトの職員の努力でなんとか殺処分ゼロであるとか、それにほぼ近い状態が保たれると思っています。それから、地域の方々もご協力いただいて、猫ちゃんなんかもそうですけど、いろんな形で保護をしてくださっているの、地域社会の力で、何とか、今なっているなと思っていますが、ただ今の状況はとても、これからの 50 年というよりも、今日、明日にでも変えていかないといけないような状況だと思っています。

したがって、今の状況を早急に改善するとともに、これから 30 年、50 年持続可能な動物愛護センターにする必要があると思っています。やっぱり、何といても明るい雰囲気が必要ですよね。保護するとか、あるいはそういうことではなくて、もっともっと譲渡をして、みんなに訪れてもらって、それで行くだけで楽しいような場所にしたいと思っています。

今、もちろん保護した動物を預かる場所もつくりますけども、それと保護した動物を、ペットと触れ合うような場所であるとか、あるいはボランティアの皆さんと一緒に何か講演会であったり、譲渡会をやったりするようなところ、そういったものをつくりたいと思っています。

それから、ペットと一緒に、いわゆるドッグカフェだとかありますけども、ペットと一緒に飲食ができるようなカフェも併設する、あるいは、できれば富士山の見えるところにしたい、広がったところにしたいと思っていますけど、屋外テラスがあったり、ドッグランがあったり、そういったところ、飼い主同士の交流もできるような、そんな場所にしたいと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。そもそも、今回の新築・移転というのは、市長が主導されたものなんでしょうか。

◆市長

主導というよりも、皆さん何とかして欲しいと思っていたと思います。本当に皆さん頑張っていましたけど、「これ、ひどいですよね」って言ったら、なんか、本当に皆さん、なんか救われたような顔をされていました。

だから、みんなの思いですよ、あそこではちょっと、ちょっとじゃなくて、とてもかわいそうだという思いが皆さんあったので、それで何とかしようと、私が決めて何とかするというわけではなくて、もちろん市の財政だとか、いろんな人たちが、こうやってやりましょうってならないといけないし、それから場所も、今回計画しているのは玉突きなんですよ。今ある別の施設があるところに

動物愛護センターが移って、そこにいた部局は別のところに移るというようなことをやりますので、それでないと費用が、どんどんどんどん、新設、新設だと拡大しますので、そういったこともあるので、市全体で何とかしようということで協力した結果だと思っています。

◆中日新聞

最後です。ペット防災の観点で、計画案には「災害時に被災動物の保護収容拠点」とあるんですけども、これはペットと飼い主の同行避難の拠点という意味ではなくて、動物だけを収容というか、そこについていう…。

◆市長

両方あると思います。避難所においては、同行避難がやっぱりできるようにするというのは大事ですし、はぐれてしまった子といいますか、ペットがいますよね。そういうペットについては、保護しないといけません。例えば大規模災害のようなときは、なかなかペットを連れてということができないので、どうしてもはぐれてしまうような場合があって、それで保護するということがありますから、それは同行ではなくて、別の場所に保護して、それでどこかで出会ってもらうか、あるいは、その後、引き取る人がいない場合は譲渡していくというような形になると思いますので、はい。両面、避難所と拠点と両方と思っています。

◆中日新聞

新しいセンターの一部のスペースに、飼い主と猫、または犬が同行避難できるスペースを作るという意味ではない…。

◆市長

ではないですね。はい。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆市長

同行避難はやっぱり、避難所を中心にするのがいいかなと思いますので。

◆司会

その他、いかがでしょうか。静岡新聞さん。

◆静岡新聞

清水区三保の PFAS を巡る問題について質問です。市長と、この問題の原因者と考えられている工場の社長が市役所で面談する際に、面談記録が作られていなかったということなんですけども、これに関する受け止めに教えてください。

◆市長

はい。面談も 2 種類あって、例えばお正月のようなときに来られて、「今年もよろしく」というような、いわゆる時候の挨拶の場合もありますし、それから今の、例えば清水で、今問題になっているのは三保のポンプ場ですね、ポンプ場の中にポンプ場に繋がる雨水の排水管のところに、工場から地下水が相当流入している可能性があるのも、今、最初にやらないといけないのは下水道管、雨水管に対する流入防止対策、これについてどうしますかというような相談を受けるときがあります。

もちろん、普段は市の職員とやっていますので、そこはそこで記録はあると思いますけども、社長さん、あるいは副社長が来たとき、来られたときに、そういうところで、「今の状況はこんなふうになっています。一生懸命やっています」とか、「だいぶ進んできました」という話がありますので、そういうときは、市の職員は同席をしている、そのまま前ということではなくて、離れたところにいる場合もありますけど、そういう 2 種類あるので、先ほどの時候の挨拶の場合は、これは記録は取る必要はないと思いますけども、市の職員が入った形で、しかも、例えば今の雨水の排水管について、どうするということについては、これは記録を取るべきだと思います。記録を取っていなかったということですので、これについては適正に記録を取るようにしていくことが必要だと思いますが、ちょっと静岡市の場合、公文書の管理に関する規定がちょっと甘いんじゃないかなということが、今回の件でもよくわかりましたし、以前から公文書の管理規則がちょっと条項も少ないし、具体的なこともあまり書かれていないので、それを何とかするべきじゃないかという話がありました。

今は公文書管理規則になっていますけど、やっぱり公文書管理条例を定める時代でしょということは、今回の件より以前から、総務局から相談があって、その方向で今検討が進んでいますので、今回の件も含めて公文書管理条例の制定について、できるだけ早く制定できるように取り組んでいくことが必要だと思います。

条例を定めれば、その中で具体的な規定、こういうときは作成するとか、こういうものを作成しなさいということが決められますので、それに基づいて適正にやっていくのが必要ではないかなと思っております。以上です。

◆静岡新聞

ありがとうございます。別の質問です。

昨日の 20 日の議会の運営委員会で追加の人事案が示され、市の方から示されました。特に教育長に関する人事なんですけども、中島小の中村校長、女性の方なんですけども、提示されたということで、この方に対する人物の評価とか、人事の狙いなんかがあれば、教えていただきたいと思います。

◆市長

はい。これは、これから議会の中でいろいろ説明をしていきますので、議会の中でしっかりとご説明をしていきたいと思います。学校の教育については、今、本当にいろんな問題がありますので、それは教育の質の問題もあるし、それから教員の多忙化の問題もあるし、いろんな現場での改革が必要な時代だと思っていますので、やはり現場のことをよく知った方が、トップにいた方が効果的ではないかなと思っていますので、そういう方ができる方だと私は考えていますが、まずは説明はそのぐらいにとどめておきたいと思います。

◆静岡新聞

わかりました。関連して、現赤堀教育長なんですけども、5 年間教育長として勤務されて、3 月末で辞職するということなんですけども、赤堀教育長に対する、これまでの仕事ぶりについては、市長はどう評価されていますでしょうか。

◆市長

はい。本当に元々優秀な方で、市の職員として、ずっとやってこられて、最後は政策監でしたかね、までやられた方ですので、人柄も、能力も非常に高い方だと思います。それで、5 年間の任期の中で、今の新しい時代の教育に関して、いろんな取り組みをされたと思っています。

私は約 2 年前、市長になったわけなんですけども、そこで感じたのは、教育委員会は硬い、閉鎖的につくづく思いました。それは赤堀さんがそういうことではなくて、職員といろいろ話をしてきました。教育委員会の事務局ですよ。もうガチガチで、自分たちで勝手にやるという感じが非常に強かったので、そういう中で、私もいろいろ、教育委員会の事務局には申し上げました。

それに対して赤堀教育長ですね、一生懸命いろんな形で取り組んでいただいて、2 年間で相当改善をしてきましたので、赤堀現教育長には、感謝をしているところです。

◆静岡新聞

関連してすいません。と、言いつつも、今回、行政職出身者の教育長ではなくて、教育現場をよく知っていらっしゃる校長先生経験の方にお願ひするっていうところの、変化させたっていうか、狙いみたいのがあるんでしょうか。

◆市長

それは先ほど申しましたように、今、教育改革は必要なときで、総論ではなくて、個別の具体の改革なり変革が必要なわけで、それは現場をずっとやってこられて、教職員の気持ちもよくわかるし、自らも教えてこられて子どもたちの気持ちもよくわかる、あるいは保護者の気持ちもよくわかる方がやるということが、必要なときではあると思います。

それだけで決めたというわけではありませんが、やっぱり今はそういうときだと思ひますので、時代時代でいろんな課題が出てきますから、今は現場を知っている方がやるというのが、非常に大事なときではないかなと思ひています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい。

それでは、以上で本日の市長定例記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

◆市長

ありがとうございました。

◆司会

次回は、3月13日、木曜日の予定となります。よろしくお願いいたします。